

王城寺原演習場における米軍実弾射撃移転訓練の訓練見学会を開催

令和5年5月26日（金）、王城寺原演習場において、米軍実弾射撃移転訓練の訓練見学会が実施され、宮城県及び演習場が所在する大和町、大衡村、色麻町の関係者約40名と報道関係者が参加しました。

見学会では、ライアン A・スティッツェル大尉（第3海兵師団第12海兵連隊第3大隊デルタ中隊長）より「この訓練は、海兵隊が日本の防衛に資するよう砲撃の練度を維持するための重要な訓練で、安全かつ正確に射撃するために多くの安全対策を実施している」等の説明がありました。

参加者は、海兵隊員による155ミリりゅう弾砲、小火器などの性能や射撃指揮所の役割等についての説明に耳を傾けていました。また、見学会の最後には、155ミリりゅう弾砲3門を用いた実弾射撃訓練の見学を行いました。

射撃訓練は、5月25日から6月3日までの10日間のうち、8日間実施します。



ライアン A・スティッツェル大尉の説明



参加者に説明する海兵隊員



155ミリりゅう弾砲



155ミリりゅう弾砲による実弾射撃訓練